

「シドニー大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学3年 稲田達彦

1. 学習成果

自分は海外での短期留学はこれで二度目であるが、この留学をおえた今でも再びどこかに留学をしたいと思っている。さらに過去の二回とは異なり、より長期のものに臨みたい。それも今回派遣されたことにより、より海外で学ぶことへの意欲が高まったことが要因であると考えられる。また現地の学生とも交流することができた。ご飯を食べに行ったり、一緒に観光をしたりと、共に時間をすごしたことにより、生のコミュニケーションをとることができた。今後もよい友人として付き合いけそうであり、大変良かった。また初めてのオーストラリアということで現地の文化も存分に吸収することが出来たと感じている。日本とは異なることがたくさんあり、オーストラリア特有のゆったりした雰囲気の魅力を感じた。

2. 海外での経験

オーストラリアは初めて訪れる国であったため、多少の不安はあったものの、案ずるより産むがごとし。大変充実した時間をすごすことが出来た。到着前にはあまりイメージが出来なかったものの友人の助けと現地の先生やバディーたちのおかげでシドニーの見ておくべきものや、しておくべきことはあらかじめ出来たと感じている。今回は特に困難な状況が自分自身には発生しなかったが、今後も海外であるということをしっかり意識して海外生活をすごしていきたい。

3. プログラム内容

本プログラムに期待したことは英語力を向上させることと、海外に対する理解を深めることであった。自分としてはこの二つのことを満たすプログラム内容であったと思う。二週間に渡って毎日のように英語に接したことで英語の四つの技能全てが向上したと思うが、特に聞く、話すの分野が特に成長することが出来たと感じる。また先にも書いたように現地の学生と交流したことは大変有意義であったし、海でのライフセービングの実習は楽しくもあり実践的でもあったし、農場での研修ではただオーストラリアの農業の問題点を知るだけではなく、オーストラリアの動物達にも触れ合うことができた。やはり本や写真だけではなく実際に見たり聞いたりすることの有用性を感じた。

4. 進路への影響について

この留学を通してまた長期の留学に向かいたいという意欲が高まったことは先にも述べたが、具体的には大学院に進学した時に英語で講義が行われるところで専門科目を学びたい。もちろんその場所にいることで英語のブラッシュアップも同時に行えると考えている。